

独立行政法人教員研修センター

平成 22 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

平成 22 年度

小学校・中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修

— 伝統や文化を継承し、新しい文化を
創り出す力をはぐくむ指導力向上研修プログラム —

報 告 書

平成 23 年 3 月

大阪府教育センター

目次

プログラム名とその特徴	-----	1
プログラムの全体概要	-----	2
I 開発の目的・方法・組織		
1 開発の目的	-----	3
2 開発の方法・組織	-----	4
II 開発の実際とその成果		
1 開発の実際【研修編】	-----	6
2 研修編における効果測定	-----	20
3 開発の実際【実践編】	-----	22
4 実践編における効果測定	-----	28
5 シンポジウム	-----	30
6 「伝統・文化に関する教育」研修に係る連携協議会 —研修の評価及び改善	-----	31
7 研修の成果	-----	31
III 連携協力による研修についての考察		
1 本研修で開発した関係機関との連携プログラムについて	-----	33
2 関西舞台芸術研究所研修開発グループの取り組みについて	-----	33
3 連携の実績及び成果	-----	33
4 連携によるメリット	-----	34
IV その他		
1 キーワード	-----	35
2 人数規模および研修日数（回数）	-----	35
V 参考資料		
1 「伝統・文化に関する教育」研修に係る連携協議会設置要綱	-----	36
2 「伝統・文化に関する教育」研修に係る連携協議会の記録	-----	37

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	平成 22 年度 小学校・中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修 － 伝統や文化を継承し、新しい文化を創り出す力をはぐくむ 指導力向上研修プログラム －
プログラムの特徴	<ol style="list-style-type: none">1. 「我が国の伝統・文化に親しみと誇りをもち、そのよさや美しさを語れる心豊かな子どもたち」を育てるために教員の指導力を向上する研修を実施する。2. 大阪府教育センターの実施する研修や府内の学校の授業に、関西舞台芸術研究所研修開発グループ実施のワークショップを取り入れ、子どもたちの五感へ有機的に刺激し、感じ取らせることで、伝統や文化に親しみながら、理解を深められる学習プログラムを作成する。3. 「伝統や文化に関する教育」が求められている背景及び意義についてのシンポジウムを開催し、講演及び実践発表会等から学び、議論することによって、「伝統・文化に関する教育」に対する意識の向上を図る。4. 「伝統や文化に関する教育」に係る協議会を開催し、研修の評価・改善を行う。構成メンバーは、教育センター指導主事、関西舞台芸術研究所とする。

平成 23 年 3 月

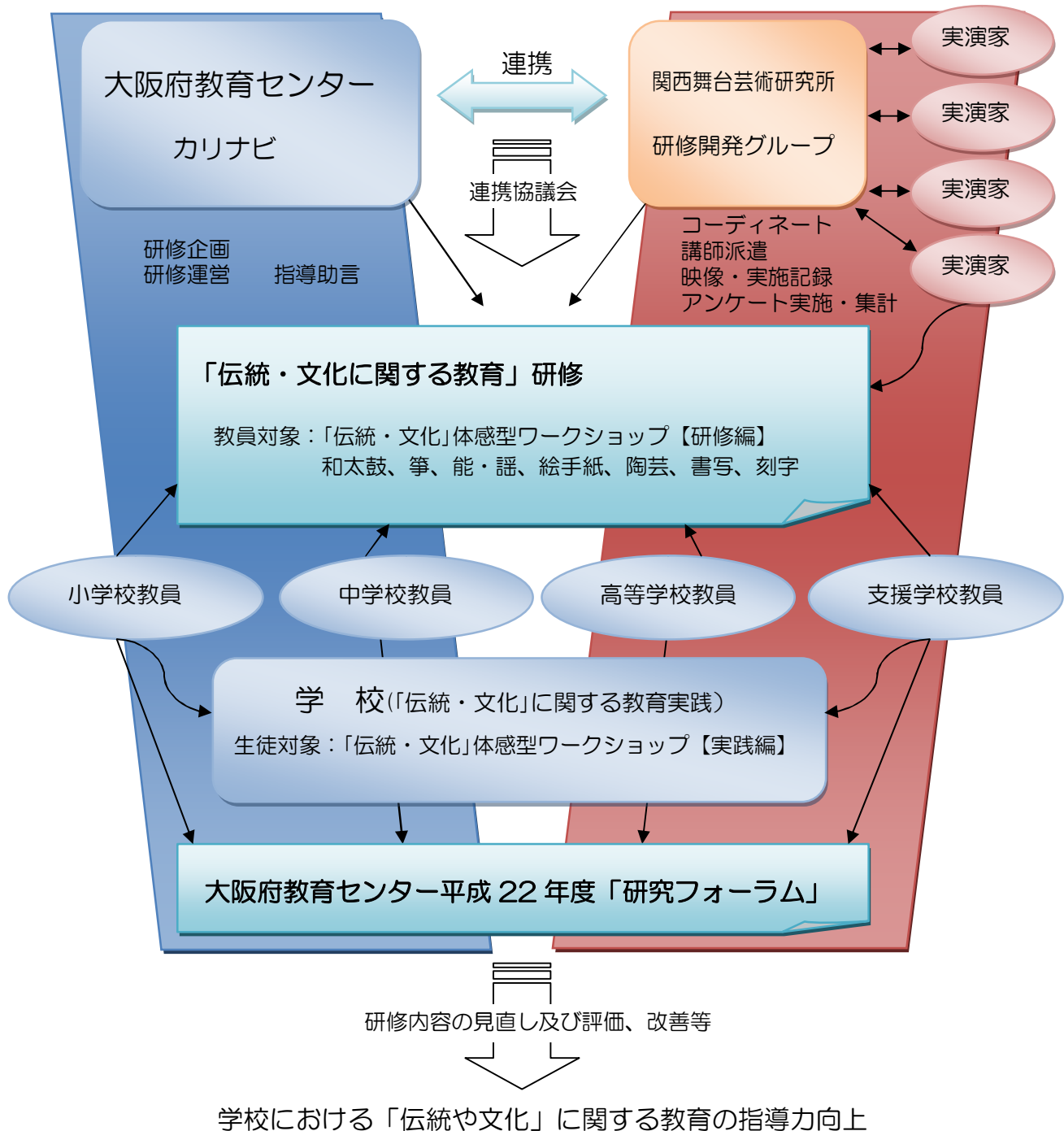
機関名 大阪府教育センター

連携先 関西舞台芸術研究所研修開発グループ

プログラムの全体概要

本プログラムでは、下図の関係機関との連携協力体制スキームに基づき「伝統・文化に関する教育」研修を実施するとともに、研修終了後の受講者による授業実践によって伝統や文化を継承し、新しい文化を創り出す力をはぐくむ指導力向上を図った。また、「伝統・文化に関する教育」研修に係る連携協議会を定期的を開催することによって、研修内容の見直し及び評価、改善等を行った。

小学校・中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修
 —伝統や文化を継承し、新しい文化を創り出す力をはぐくむ指導力向上研修プログラム—



I 開発の目的・方法・組織

1 開発の目的

グローバル化が喧伝される近年、子どもたちには国際人としての成長が期待され、アイデンティティの根幹となるべき、「伝統や文化に関する教育」の充実が求められている。

そのような状況下、子どもたちに「伝統や文化」のよさを継承・発展するための教育を充実させることにより、豊かな感性や想像力を育てるとともに、自国への理解と尊敬を深め、国際社会の中で互いの文化や歴史を認め合うことが、真の意味での国際人の育成につながると考える。

本プログラムは、伝統や文化を教材にした体感ワークショップを通じて、日本の四季や生活の中で感じる伝統の心や精神を培い、自らの生き方を自覚できる学習プログラムである。さらには、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものである。教育基本法において「我が国の伝統と文化の尊重」が新たに掲げられ、伝統や文化に関する教育の充実が必要となった今、体験活動を通じて、「伝統・文化を知り、伝統・文化に誇りをもち、伝統・文化を語る」子どもたちを育成するために、指導者の指導力向上を目的とする。

《研修の4つの柱》

1. 「我が国の伝統・文化に親しみと誇りをもち、そのよさや美しさを語る心豊かな子どもたち」を育てるために教員の指導力を向上する研修を実施する。
2. 大阪府教育センターの実施する研修や府内の学校の授業に、関西舞台芸術研究所研修開発グループ実施のワークショップを取り入れ、子どもたちの五感へ有機的に刺激し、感じ取らせることで、伝統や文化に親しみながら、理解を深められる学習プログラムを作成する。
3. 「伝統や文化に関する教育」が求められている背景及び意義についてのシンポジウムを開催し、講演及び実践発表会等から学び、議論することによって、「伝統・文化に関する教育」に対する意識の向上を図る。
4. 「伝統や文化に関する教育」に係る協議会を開催し、研修の評価・改善を行う。
構成メンバーは、教育センター指導主事、関西舞台芸術研究所とする。

《研修の主な内容》

1. 「伝統・文化」体感型ワークショップ【研修編】
「伝統・文化」体感型ワークショップ【研修編】の実施記録書作成
2. 学習プログラムの作成
3. 「伝統・文化」体感型ワークショップ【実践編】
4. 「伝統・文化」シンポジウムの開催
5. 研修カリキュラムの評価・改善（【実践編】の効果測定及び授業分析から、より効果的なプログラムの作成）

2 開発の方法・組織

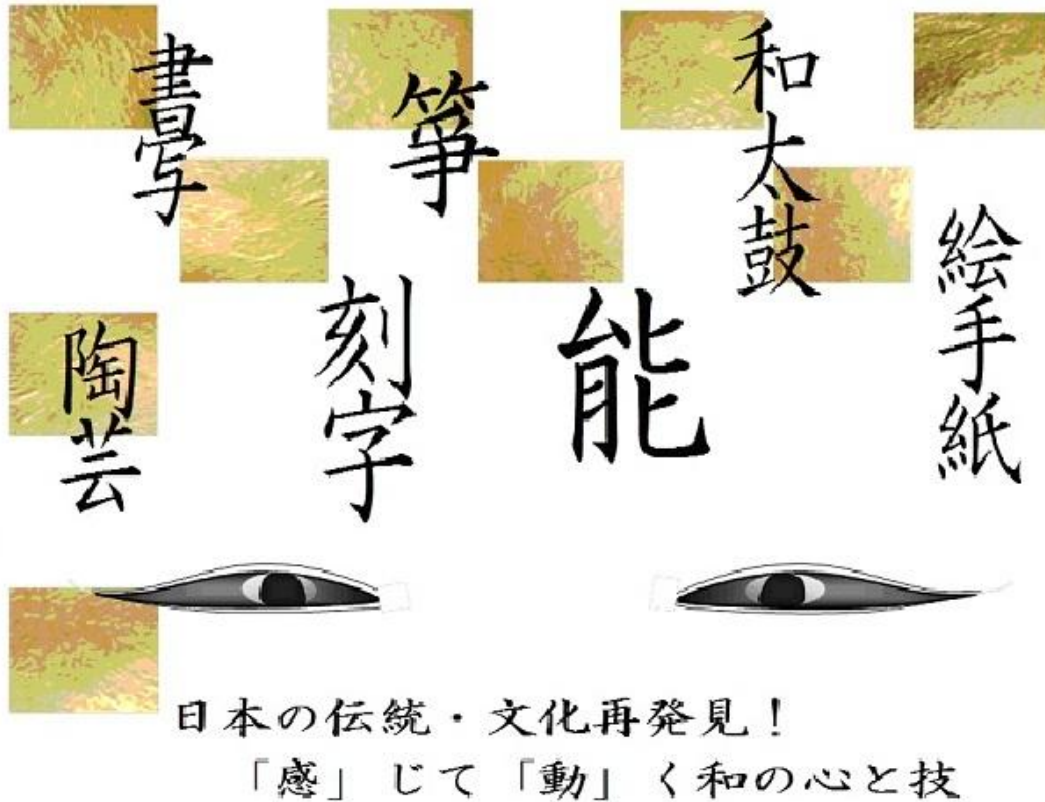
(1) 研修対象：小・中・高等学校および支援学校等教職員

(2) 研修日程案（講師等を含む）

時期等	内 容	目 的
7月 ～8月	「伝統・文化」体感型ワークショップ【研修編】 1 音楽・和太鼓（実演家 吉田 拓也） 2 音楽・箏（実演家 菊珠 三奈子） 3 能・謡（能楽師 梅若 基徳） 4 美術・絵手紙（創書家 堀井 桃蓮） 5 美術・陶芸（陶芸家 大原 千尋） 6 書道・書写（東京学芸大学教授 長野 秀章） 7 書道・木彫・刻字 （府立柏原東高等学校 教頭 美濃 幸男）	伝統・文化の体感型ワークショップを通じて、「伝統・文化を知り、伝統・文化に誇りをもち、伝統・文化を語れる」子どもたちをはぐくむために、教職員の指導力を育成する。
9月	「伝統・文化」体感型ワークショップ【研修編】の実施記録書作成	研修のまとめと分析を行い、「伝統・文化」体感型ワークショップ【実践編】へつなぐ。
10月	学習プログラムの作成 「伝統・文化」体感型ワークショップ【研修編】の評価集計及び実施記録書に基づき、「伝統・文化」に関する教育の充実のための学習プログラムを作成する。	実施記録書の分析・研究により、授業における効果的な学習プログラムを考える。
10月 ～1月	「伝統・文化」体感型ワークショップ【実践編】 学校現場において、学習プログラムを実施し、「伝統・文化」に関する授業を行い、実証研修とする。	授業で学習プログラムを実施し、効果測定及び授業分析から、より効果的なプログラムを作成する。
12月	「伝統・文化」シンポジウムの開催 ●講演「日本の伝統・文化」の特長について ー能・歌舞伎・文楽など、世界に誇る日本の古典楽劇に共通する性格を探り、同時にその普遍性を考察する 講師：河内 厚郎 （演劇評論家・夙川学院短期大学教授） ●体感型ワークショップの報告 （大阪府教育センター指導主事） ●実践発表 （実施校担当者） ●開発プログラム中間発表と今後の方向性について （大阪府教育センター指導主事）	「伝統・文化に関する教育」の背景や意義の定着を図る。 「伝統・文化」体感型ワークショップ【研修編】【実践編】について、振り返りと意見交換することにより、課題と改善の方向性について検討する。

(3) 開発体制

所属・職名	氏名	担当・役割
大阪府教育センター カリキュラム研究室長 主任指導主事 指導主事 指導主事 指導主事	松本 透 八巻 敏幸 恩知 理加 若山 良雄 仲谷 浩	開発プログラム連携協議会事務局 「伝統・文化」教育担当・研修の 企画・立案
関西舞台芸術研究所 研修開発グループ	森村 暁子 川嶋 みほ子 若林 康人	開発プログラム実施・運営・記録



平成 22 年度 大阪府教育センター 研究フォーラム B-7 分科会

- 日時 平成22年12月27日(月) 午後1時45分～4時45分
- 場所 大阪府教育センター 別館 第11・12研修室

- 講演「間」は「魔」に通ずー日本文化の深奥ー・・・・・・・・・・・・・・・・河内 厚郎（演劇評論家）
- 児童による落語 演目「動物園」、「子ほめ」、「犬の目」、「理のサイコロ」・・・・・・・・阪南市立上荘小学校
- 平成 22 年度小学校・中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修報告・・・・・・・・大阪府教育センター指導主事
- 実践発表・実践報告・・・・・・・・谷廣 進一（大阪府立夕陽丘高等学校） 松岡 千穂子（大阪府立生野高等学校）
大阪府教育センター指導主事



参加申し込みについて

- 本研究フォーラムへの参加には、事前の申し込みが必要です。
- 参加を希望する方は、大阪府教育センターのWebページ (<http://www.osaka-c.ed.jp/>) から申し込んでください。
- 先着順で受け付けます。
- 申込期間は、11/24（水）午前10時～12/21（火）午後5時です。募集定員になり次第締め切りますので、ご了承ください。
- 教職員の方は、申し込みの際には、事前に所属長の承認を得てください。

